

地震における火災の多くは通電火災によって起きています。
通電火災の原因や対策法について紹介していきます。

通電火災はなぜおこる

～地震発生時～

- ・ 損傷した配線などに再通電し発熱発火する。
- ・ 転倒したヒーターに可燃物（カーテン・じゅうたん）等が触れ発火する。
- ・ 再通電時に発生した電氣的火花が、漏れ出たガスに引火し爆発する。

〈阪神・淡路大震災における建物火災の原因〉



阪神・淡路大震災における建物火災の
6割が「通電火災」によるものでした。

※神戸市ホームページより

通電火災の対策法

～停電発生時～

- ・ 停電中は電気機器のスイッチを切るのと一緒に、電源プラグをコンセントから抜き、ブレーカーを落とす。

※ 復旧時の通電で火災が起こりやすいため。

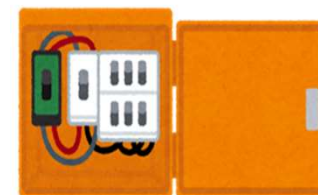
～給電再開時～

- ① 浸水などにより家電製品が破損していないかの確認
 - ② 配線やコードが損傷していないかの確認
 - ③ 燃えやすいものが近くにあるかの確認
- これら3つを確認し家電製品を使用する。

対策グッズ

家電用電源遮断器

- ・ 震度5強相当以上の地震で確実にブレーカーを落とす。
- ・ 家庭のブレーカーに簡単に取り付けできる。
- ・ 感知震度を5・6・7相当の3段階を選んで設定可能。



まとめ

- ・ 停電中自宅から離れる場合はブレーカーを落とす。
- ・ 家電製品を十分に安全確認してから使用する。

スライド 1

t1 京都府立東稜高等学校,